

## KOBATO サッカースポーツ少年団 育成方針

### ～ゴールは「サッカーやスポーツが好きな子ども」の育成です～

KOBATOはクラブチームではなく、指導者も全員がボランティアで関わる地域のスポーツ少年団です。「試合に勝つ」ことを一番の目的にはしていません。運動の得意な子も、苦手な子も、地域の子どもなら皆が平等に指導を受け、平等に試合に出ます。そうした活動を通じ、子どもたちがサッカーや体を動かすことを好きになってくれればよい—そのような思いで、子どもの育成に当たっています。

サッカーが好きになれば、子どもは自分でもっとうまくなりたいと思い、自分で練習に取り組むようになります。

そのゴールを目指す中で、さらに次ページで説明するいくつかの育成方針があります。

### 「自分の頭で考えて動ける子どもに」

KOBATOの指導者は試合の中で細かい戦術やポジショニングを指示しません。そのような指導を行えば、一時的にはチームは強くなるかも知れません。しかし、サッカーは刻々と変わる状況の中、常に一瞬の判断を求められるスポーツです。だから自分の頭で考えて、動けるようになることが大切なのです。

小学校のうちには個人技を磨き、自分の頭で考えるトレーニングを積み、中学、高校と進むにつれ、おのずと能力は伸びていくと考えています。また、自分の頭で考えることを身につけることは、サッカー以外でも役立つはずで

### 「自分の力を出し切れる子どもに」

子どもたちは、実力的に同じぐらいの相手に大差で負けたかと思うと、かなり強いチームともいい試合をすることがあります。なぜそのようなことが起こるのかというと、子どもは大人が考える以上に、メンタルな部分に左右されるからです。

KOBATOは多くの試合に出場します。なぜなら試合が最も有効な練習方法だと考えているからです。練習はしよせん皆が知り合いという環境です。練習で100%できたことも、プレッシャーで50%しかできなくなるのが試合です。当たりの激しさも試合は練習とは比べ物になりません。

そうした厳しい状況の中で、常に自分の力を出し切ることができれば、能力は自ずと伸びていくはずで

## 「だれもが平等な指導を受ける」

勝つことを目指すチームの中には、サッカーの得意な子だけを集めた選抜チームを作り、その子達だけハードな練習を課すチームもあります。しかし、サッカーの得意な子だけが集まっていると、チームメイトも皆上手いので、自分がそんなに頑張らなくてもよいという状況におちいる場合もあります。

KOBATOのように様々な子どもがいるチームでは、サッカーが得意な子は苦手な子の分も頑張り、苦手な子も試合という真剣勝負の場で頑張らなければなりません。全員が自分の力を最大限に高められる指導を行うことこそが、本当に平等な指導だと考えています。また、そうした状況を通じて子どもたちは本当のチームプレーを学びます。

## 「様々な指導者、親との関わりを持つ」

核家族が増加し、地域のつながりが希薄になっている今、学校と家庭以外に社会教育の機会を持つことは、とても貴重になってきています。

KOBATOでは地域の指導者と団員の親が協力して子どもの育成を行います。子どもたちがサッカーを通し様々な大人と接する機会を持てることも、スポーツ少年団ならではの特長だと考えています。

村田監督 談

